

ワット 会社の雰囲気^{ワット}を1W明るくするコミュレポ

エックスパートナーズ 丹羽 浩之

皆さん、こんにちは。私は、コミュニケーションについての気づきを毎月1回、振り返ることにはしています。せっかくなので日頃お世話になっている皆さんにもシェアできればと思いこのようなレポートを記述することにしました。ご笑読頂ければ幸いです。

孤独に強い人

あるインタビューで著名な政治家が次のように言っていました。

『政治家は孤独に強くなければ、できない。』

この一言に凝縮された意味は奥深く、月並みですが経営者も全く同じであると思いました。私自身は、「孤独に強い人」ではなく「孤独に強くありたい」と思う人です。

では、孤独に強いとは何か？を私なりに突き詰めて考えてみると「どこまでいっても、自分の責任と自分自身を納得させられている人」ではないかと思います。

「結局、自分の責任なんだよな〜。」と他人に言うことは簡単ですが、自分が本気で納得できているかどうかは別問題だからです。『他人に言う』とは脳に理解させること、『自分に言う』とは自身の心で腑に落ちていることとも言えます。

振り返ると、私自身は常に脳と心に矛盾を感じ、苦しんでいます。

私自身はコンサルティング活動を行う傍ら、組織やプロジェクトのマネジメントに取り組んでいます。そこでは自分が思うように進まないこともしばしばで、私自身が膝をつきあわせて行った教育も、結果としてあまり身になっていないと思うことがあります。部下の代わり映えない発言や進捗状況を聞いては、落胆し失望します。そんな時「なんで、こんなに進まないんだ。どういうつもりでいるんだ！」と“特定の対象”に怒りが湧いてくるのと同時に「かといって私一人でするわけではない。」と自分を戒める言葉が湧いてきます。つまり「結局、自分の責任だよな〜」と思いながらも、感情が収まりきらない自分がいて、**脳では理解しているが、心で腑に落ちていない状況**なのです。

このような時冷静になり、自分の感情を周りに察知されずに「今、自分にできることは何か？」を考え、自ら実行できる人。どこまでいっても社員には分かりかねるこの感情の矛盾を自分で冷静に抑えることができる人。今の私にとって、孤独に強い人というイメージはこういった人です。「どこまでいっても自分の責任。」こう自分自身を納得させている人はさぶるカッコよく、雰囲気ですぐに分かります。逆に「結局、自分の責任だよな」と他人には言いながら、心で納得していない人もそれが顔に出ているものです。

そして「孤独に強い人」とは「**部下や周りに嫌われても尊敬を勝ち取れる人**」と言い換えることもできます。この嫌われても尊敬を勝ち取る経営者やマネージャーのいる会社に「燃える集団」ができあがり、そこにはシステムを遥かに超えたマネジメントが存在するように思うのです。コーチングだ、承認だということが流行りすぎて「嫌われても尊敬される」経営者やマネージャーが減ってしまったように思います。私は今一度「孤独に強い人」という原点に立ち戻りたいと思います。